

令和7年度 第1回浜松市男女共同参画審議会 会議録

- 1 開催日時 令和7年8月7日(木) 午前9時30分から午前11時30分まで
- 2 開催場所 浜松市役所 本館5階 51会議室
- 3 出席状況
 - (1) 委員 石原和代委員、犬塚協太委員、葛島昌己委員、新村早織委員、鈴木竜一委員、高橋節郎委員、田中朋子委員、長谷川良樹委員、前嶋宏明委員、山崎三恵子委員
※50音順
 - (2) 事務局 水谷供子市民部長、中村美紀UD・男女共同参画課長、平澤啓樹UD・男女共同参画課長補佐
大場由紀共同参画グループ長、伊藤茜、古木巧真、内山美穂
特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会 2人
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容 令和7年度事業計画（男女共同参画主要事業）【資料1】
- 6 報告 令和6年度活動拠点施設事業（あいホール事業）報告【資料2】
令和6年度第3次浜松市男女共同参画基本計画 実績報告【資料3】
- 7 会議録作成者 内山 美穂
- 8 記録の方法 発言者の要点記録（録音の有無：有）
- 9 配付資料
 - (1) 次第
 - (2) 委員名簿
 - (3) 【資料1】 令和7年度事業計画（男女共同参画主要事業）
 - (4) 【資料2】 令和6年度活動拠点施設事業（あいホール事業）報告書
 - (5) 【資料3-1】 令和6年度第3次浜松市男女共同参画基本計画進捗状況報告書（自己評価）
 - (6) 【資料3-2】 令和6年度指標の推移（第3次男女共同参画基本計画）
 - (7) 【資料3-3】 第3次男女共同参画基本計画進捗状況調査表
- 10 会議記録 次頁以降のとおり

1 開会 事務局

令和7年度第1回浜松市男女共同参画審議会を開催する。

2 市民部長あいさつ

水谷市民部長あいさつ

3 会長あいさつ

4 新委員委嘱書の交付

水谷市民部長から、前嶋宏明委員への委嘱書の交付を行う。

＜委嘱書交付＞

5 委員自己紹介

＜委員の自己紹介＞

6 職員紹介

＜UD・男女共同参画課職員自己紹介＞

7 議事

(1) 令和7年度事業計画（男女共同参画主要事業）について

事務局

令和7年度事業計画（男女共同参画主要事業）【資料1】の説明

犬塚会長

事務局から説明があった「令和7年度事業計画（男女共同参画主要事業）」について、ご意見、ご質問はあるか。

山崎委員

スライド8「女性に選ばれるまちプロジェクト」について。計画にあたり、実際の流出してしまった女性の声はどのように聞いているのか。

事務局

浜松を実際に転出してしまった方に、その理由やご意見を伺うことは非常に難しい面もあり、確認できていない。

山崎委員

回答を得ることは難しいかもしれないが、まず当事者の声を聞くことが第一ではないか。マッサージ機やパネルヒーターを置いたからといって浜松市から出ることを止めるとは考えにくい。

水谷部長

事務局説明のとおり、転出してしまった女性のご意見を得ることはなかなか難しいが、今、大学生・高校生といった若い方々に、今後浜松市に残りたいか、愛着はどうか、といったアンケートを広報広報課で取っている。その中でも多いのが「希望する会社がない」「大学までは浜松であったが就職のタイミングで東京や大都市へ行く」といったもの。山崎委員がおっしゃるとおり、転出してしまった方のご意見を伺う必要はある。そもそも浜松市の場合は、大学入学のタイミングでの流出は男女共そこそこいるが、女性に関

しては就職時の流出が大変多く、これは統計的に明らかになっている。やはり、希望する職種があまり知られていないということが課題だと思っている。「浜松にももっとこういう仕事がある」というPRをしていくことが必要。そういったPRをしながら、就職時の流出を減らし、浜松を選んでいただける取組みに力を入れていく必要があると考えている。

犬塚会長

市内で活躍する女性・職場等について情報収集をし、それを発信していく取組みを新しい計画（第4次計画）の中で進めていることは素晴らしいことだと思うが、出て行って戻ってこない方のご意見が分からないと、なかなか効果的な対策は打てないだろうということを私も指摘したかった。

実際、私の関わっている他の自治体でも同じような問題意識を持っておられるところもあって、転出して行って戻って来られない方に絞り込んで、いろいろな形でヒアリングをしたり、そういった方々に集まってもらって、ご意見を伺う機会を増やしたりしている自治体も全国ではどんどん増えてきている。この点は浜松市にもぜひお願いしたい。

今お聞きしていると、大学卒業、就職のタイミングで出て行かれて、そのまま戻って来られない方がいる。逆に言えば、浜松市内の大学に進学して、そのまま残られる方が、女性の場合、比較的少ないというような問題だと思う。例えばだが、大学には就職支援窓口といった部署がある。市内にはたくさん大学があるので、どこに就職されたかということがある程度は判明すると思っている。定量的に統計を取るというよりは、むしろ定性的な調査で十分だと思う。数人単位でもいいと思うけれど、そういった方々の本音をきちんと深掘りして聞き出していくということが大事だと思っている。「なぜ浜松に残らなかったのか」あるいは「就職という際になぜ浜松を選択しなかったのか」というところに問題の核心があるように思う。

山崎委員

たまたま見ていたテレビ番組で、地方都市で女性の流出が多いというところで、女性たちの声を追った番組でやっていた。そこで女性たちが言っていたのは、キャリアパスがその地元では描けないと、生活費を稼ぐための仕事だけではなく、自分がどういう人生を送るかという時に、地元でそれが実現できる仕事、会社がなかったという答えがとても印象的だった。つまり、企業側の意識が変わらないと、単純に仕事はどうということ、職種だけの問題だけではないと。浜松は製造業が多いから女性が（流出する）と言われるが、それだけではないように思う。

水谷部長

ロールモデルというか、キャリアパスが描けないということは、やはり声としてもいただいている。このスライドの7ページ、女性に選ばれるまちプロジェクト①で、浜松で活躍している女性による魅力発信事業というものを今年度やっていく。この中で、若い方に見ていただいているnoteというものを使い、ウェブ上で、浜松で活躍されている、輝かしい経歴とかではなくても、キャリアを築いて働いていらっしゃるいろいろな職種の女性の方に焦点をあてて取材をさせていただき、こういう女性が頑張っていますよ、というようなところを皆さんに見ていただきたいと思っている。

今いただいた課題についても、少し私どもも考えているので、よろしくをお願いしたい。

新村委員

今議論している部分について、自分が就職を決めた時を思い返してみた。浜松に戻ってくるとか来ないとかを決める時期は、多分、就職を決める段階というよりも、その前

の段階、高校の時であったり、もっと前じゃないかと思っている。自分が生まれ育ってきて、何となく、ここはやはり女性が生きていくにはちょっと苦しいというか、やはり男性が優先されているなどか、そういった空気感を感じている人も多い。とにかく浜松を出てみたいとか、例えば東京に行ったら、何か人生変わるかもしれない、みたいなことを思うのではないかと思う。小学校とか中学校ぐらいの人たちに、浜松ってもっと女性が活躍できるとか、女性も男性も対等に生きられるんですよ、というようなメッセージが必要だと思う。

鈴木委員

今お話にあったように自分もそう感じている。自分が校長をやっている時に、製造業の盛んな浜松市が、(生徒達に) 離れて欲しくないというところでの取組を、校長会の方に投げられたことがあった。やはり働きがいのある職場があるかないかというところがすごく大きな事かと思うが、それは男女に限ったことではないのかなと。

早い段階で、小中学校も、今、キャリア教育ということで、第3次総合計画で進めてきたが、そういった憧れを持てるような、そんな啓蒙というのも一つあるのかなという風に思った。

事務局

子供の頃から浜松に対して愛着を持っていただくとか、また住みたい、働きたいという意識の醸成については、当課 UD グループで企業探検をやったり、産業部でも浜松みらいっ子という事業で企業見学や業務紹介をやっている。この女性に選ばれるまちプロジェクトについても、女性が働きやすい環境を企業と一緒に向上していき、シビックプライドを醸成するような取組みということで、ご理解いただきたい。

前嶋委員

戻ってこないから流出と捉えているのか。流出をそもそもさせないという方向に舵を切るのか。女性にも戻ってきてほしいということであれば、U ターン合同説明会を女性だけでやるのはどうか。女性がどんな職種を求めているのかがわからないが、こんな職種があるといった説明会をやると非常にいいと思った。

石原委員

やはり浜松市内に女性が行きたい大学が少ない。大学卒業後に戻りたいと思っても就職できる職種・職場が少ない。そこを何とかしていかないと、18歳や22歳の女性が流出したまま戻ってこないという状況は打開されないと思う。浜松市全体で、女性が働きやすい職場を作っていけるようにしていかないと、女性の流出は止まらないのではないかと考える。

高橋委員

浜松は製造業のまちであるので、女性に好まれる職場が少ない。大変だが地道にやってくしかないと思う。違った観点で言うと、最近は永久就職ではなくなっているという点においては、当初の入学就職段階だけではなく、既に他県にいる方々を引っ張るということに力を入れる必要があるのではないかと思う。

田中委員

以前見たテレビ番組で、東海地方を離れる女性たちは、進学や仕事だけではなく、一定の年齢になると周りから結婚しろと言われるような価値観の固定から離れるためだということも言われていた。

今、小中学校では、地域との連携が盛んになってきている。卒業していく子供たちと地元の結びつきをしっかりとしていかないと、転出した先で根を下ろしてしまうことも考

えられるので、地元愛といったものは育てていくべきだと感じる。

長谷川委員

住みやすいまちというのは、整備された道路や街並み、良い人たちが住んでいることだと思う。企業に対してだけではなく、住みやすい街並みを作ることも市としてやらないといけない。

葛島委員

女性に選ばれるまちというのは、転出を抑えるだけではなく、呼び込むということも含めて、選ばれると考えているのか。

事務局

就職等で浜松に女性を呼び込むという施策については、産業部でやっている。

犬塚会長

どうすれば浜松から出ていった人が戻ってきてくれるか、浜松にぜひ行きたいという方を他地域からも呼び込めるか、今までのあり方のどこに問題があって、どう変えればいいのかということについて、このプロジェクトの中で、大きな前進があることを期待したい。

男女共同参画の領域で今一番問題になっているのが、十代で転出した人の中のどれぐらいが二十代で戻ってくるかという回復率である。男女共同参画先進地域として有名な兵庫県豊岡市が、男女共同参画に力を入れ始めたきっかけが、この回復率における男女差がすごく大きいということに気づいたためである。一度きちんと回復率について客観的なデータを取り、それを根拠として議論した方が建設的であるので、統計を取ることにについて、ぜひ検討いただきたい

加えて、女性から選ばれないまちの共通点としてよく挙げられる、ジェンダーバイアスのある地域性が変わらないと事態の打開は難しく、女性にとって居心地のいいまちであることが、女性人口流出をくい止めるキーコンセプトとなることは確かである。シビックプライドの問題も、魅力的なロールモデルの提示によってできてくると思うので、本プロジェクトの「浜松で活躍している女性による魅力発信事業」の効果を願っている。

8 報告

(1) 令和6年度活動拠点施設事業（あいホール事業）報告について

事務局

令和6年度活動拠点施設事業（あいホール事業）報告の説明

犬塚会長

事務局から説明があった報告内容に関して、委員の皆様方からご意見を伺いたい。

高橋委員

45 ページの相談事業について、悩み事の内容を多少でも書いた方が良いと思う。加えて、相談によって解決したのか、その後どうなったのかも知りたい。プライベートな話で言えないことはわかるが、この報告ではどう評価するのかよくわからない。

浜松男女共同参画推進協会

詳細データに関しては、市には報告している。相談内容にはついては個人情報が含まれるため、この報告資料を作る際にもかなり悩むところがあったが、データとして「〇割が〇〇の相談」などと出てしまうと、市民の方が相談し難くなってしまうのではないかと危惧しているため、ご理解いただきたい。

犬塚会長

やはり情報の管理は非常に慎重にやらなくてはならない。報告の場では、最低限の情報提示をいただいた上で、口頭で言える範囲の中でという形にとどめておかないと、こういったデータが独り歩きしてしまうのは怖い。その場で必要な情報を提供いただき、そこでまた議論するということでお願いしたい。

新村委員

DV防止講座について、参加者の感想に「あれはデートDVだったと気づいた」とか、「受講によって男女共同参画の意識が上がる」というようなものがあり、若い方の気づきの機会になっていることがわかってよかった。今後とも事業を継続していただきたい。

犬塚会長

あいホールは、全国レベルで見ても非常に高い水準の取組をされており、浜松市の男女共同参画推進の拠点として重要な役割をされていると感じている。

全国的にも、地域における男女共同参画の機能強化が図られる流れになっているので、引き続き頑張っていただきたい。

(2) 令和6年度第3次浜松市男女共同参画基本計画 実績報告について

事務局

令和6年度第3次浜松市男女共同参画基本計画実績報告の説明

犬塚会長

事務局から説明があった報告内容に関して、委員の皆様方からご意見を伺いたい。

尚、この計画は7年間に渡って実施をされ、昨年度末に終了したものであることから、新たな質問ではなく、7年間の総括という意味での率直な感想、或いは次期計画実施に繋がっていくような建設的な意見を頂戴したい。

高橋委員

【資料3-3】3ページ、放課後児童対策の充実について「達成率100.6%と計画通りではあるものの、待機児童の解消には至ってない」との意味がよくわからないので、説明をお願いしたい。

長谷川委員

自分の地域の児童会のことになるが、定員がある上、低学年優先で高学年は外される。定員を満たすという実績は達成されているが、申し込んでも入れない児童はいるという意味ではないか。

石原委員

実際に定員に満たない児童会と、待機児童のある児童会があるなど非常にバランスが悪い。旧北区は民間事業者に委託されるようになったことで利用料がかなり上がってしまった。この報告にあるように、民間活力の導入促進により定員拡大を図っていくということは良いが、事業者がきちんと運営をしているかどうかに関心がある。

田中委員

児童会では、グレーゾーンと言われている子どもたちと喧嘩等のトラブルになることがあるが、人数的に全てを見てあげられないということを先生が言っていた。

また、グレーゾーンかどうかに関わらず、地元の児童会に入れないため、他地域にある民間運営の児童会のような施設を、送迎を受けて利用している人もたくさんいる。

犬塚会長

事務局からの説明を伺う。

事務局

教育総務課の事業であるため詳細は把握してない部分もあるが、高橋委員の質問にお答えすると、放課後児童会定員数を積極的に増加するという計画があり、定員数増加という計画値は達成したけれども、希望する児童数がそれに追いついていないということである。令和5年度の定員が7,777人であったのに対し、令和6年度は8,320人と、500人程増やしているにもかかわらず、希望数がそれを上回って増えているということ。

教育委員会でも課題は把握していると思う。今いただご意見については、きちんと伝えさせていただく。

鈴木委員

学校側も防犯上のこともあり、全てを受け入れられないという部分もある。また、発達的な問題を抱える子たちについては、民間の預け先を見つけたり、場所の確保等それぞれが少しずつ受入れ努力をしているという状況。

犬塚会長

これは指標の設定に問題があったのだと思う。本来は待機児童数をゼロにするという目標値を立てるべきところを定員数で設定してしまったことにより、目標値達成はしているのに、本来の事業目的は達成できていないという結果になっている。事業の内容に対して目標値が適切なものになっているかどうかのズレによる結果かもしれない。

その他、総括的な感想・意見等はいかがか。

鈴木委員

デートDV研修について。教育困難家庭にはそういう問題を抱えた家庭が非常に多い。中高生対象に講座を実施して醸成していくということは大切であり、これからも続けていっていただきたい。

犬塚会長

第3次浜松市基本計画推進期間中にコロナ禍となり、計画当初には想定しない事態となってしまったことが特筆すべきことであった。計画内容や実施事業を、状況に対応じて柔軟に見直し、切替えて凌いだ7年間だったと思っている。

コロナ禍で一気に露呈した代表的な問題は、性別役割分業の深刻化。男性が家で過ごす時間が増えたことで、ジェンダー意識希薄といった原点に戻るような課題が顕著となった。

また、より弱い立場の女性の問題。男女間の格差・ジェンダーギャップだけではなく、女性間での格差も見えてきた。そのより弱い女性に問題が集中し、女性に対する社会基盤の脆弱さを感じた。

こういう課題は、国の第6次計画の方針の中にも入っているし、そういうことを踏まえて浜松市第4次基本計画の推進が行われている。何が起こるかわからない状況の中で、想定外のことをあえて想定しつつ、柔軟に計画の推進を見る必要を改めて感じた。

犬塚会長

本日の議事、報告は終了とする。

9 次回審議会開催について

＜次回審議会開催について案内＞

10 閉会

事務局

以上をもって、令和7年度第1回浜松市男女共同参画審議会を閉会する。